

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

～ まちで輝く市場の子 ～
 《命を大切にし、人には思いやりの気持ちを持ち、集団の中で自分を創り出せる子どもを育てます。》
 ○自ら学び続ける子（知）
 ○人にやさしくできる子（徳）
 ○心も体もたくましい子（体）
 ○地域のことを考える子（公）
 ○社会に対応できる子（開）

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力	
「集団の中で自分を創り出す力」	○地域の一員としての自覚をもち、社会で生き抜く力を身に付けている子 ○いのちを大切に、温かく思いやりあふれる豊かな心と健やかな体で、自らも学び続ける子

中期取組目標

○子ども一人ひとりを大切にしながら、自己有用感に基づく自己肯定感や自尊感情を育て、まちとともに歩む学校にします。
 ・学ぶことや学び合うことの楽しさを実感できる授業づくりを推進し、基礎力を身に付け、自ら学ぶ意欲を育てます。
 ・一人ひとりが自己有用感を持ち、承認欲求や帰属欲求を充足する学校生活が送れるようにします。
 ・健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。
 ・「人」とのつながりを意識し、地域行事やまちの人とのかかわりの中で豊かな体験を味わい、まちを愛する心を育てます。
 ・令和2年度に併設した「けやき分校」のつながりを意識して、児童増加に対応した大胆かつきめ細かな学校運営を行います。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きて働く知	①全学級で「市場スタンダード」を学びの基盤とした指導を行い、生活や学びの基礎・基本の定着を目指す。 ②横浜が大切に「三つのつながり」を意識し、日々の学びの姿「じっくり考え 高め合い 次につなげる確かな学び」の実現に向けた授業を展開する。
担当	研究部

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
○学力の概要と要因の分析 どの教科も横浜市の平均を超えている。特に国語科と算数科の2教科については大きく超える結果が出ている。それに比べると、学習意欲は低い値が出ている。詳しく見ると、「○○(教科名)の学習は好きか」という質問に対する答えが低い。子どもが楽しみながら力をつけていくような学びを目指して、授業改善をしていく必要がある。 ○学力層を経年変化で捉えた分析 同じ児童集団の学力層を経年で捉えたときに、平成27年度からは学力層ABの児童が過半数を占めるようになり、学力層CBの児童は40%を切るまでに減ってきていることが分かる。確実に学力がついてきているのがわかる。しかしながら、20%近い低学力層の児童たちのボトムアップも大切である。課題別やグループ学習など、個の状況に対応する丁寧な学習形態等も取り入れたい。 ○学習意欲・生活意識と学力層とのクロス集計による分析 「○○(教科名)の勉強は好きか」の問いにはどの学力層の児童も低い結果が出た。反面、「○○の勉強は大切だと思いますか」の問いにはどの学力層の児童も高い値を示した。一見すると矛盾するこのような子どもたちの思いの「隙間」を埋めるために、「何を学ぶか」よりも「どのように学ぶか」という意識を高くもち授業改善の視点としていきたいと考えている。	○「他者を理解する態度」や「伝え合うことで自分の考えを深化させる力」を身に付けさせる。 ○「自分でできることを見つけ、進んで行動する態度」や「協働的に行動する姿勢」を醸成する。
目標を実現するための具体的行動プラン	
○「聴き方」の指導に力を入れ、相手意識や他者意識、自分以外のことを自分ごとに捉える姿勢を身に付けさせる。 ○各教科の授業をはじめ学校生活全般で対話の場面を多く設定し、一人一人が必要感をもって考え、自分の言葉で意見を出し合えるよう、子どもとともに問いを作ったり教師が発問を工夫したりする。 ○自己決定の場を意図的に設定し、最後まで粘り強く取り組めるよう支援するとともに努力や成果を適切に価値付けすることで、自信と次の自発的な行動が生まれるようにする。 ○自分自身のよさ、友達のを理解し、違いを生かしながら目的に向かって協働的に活動する場面を設定し、その価値を感じることができるよう支援する。	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①人権黒板や人権月間の取組みを通して自他の違いに気付いたり違いを尊重したりする活動を展開する。 ②学年児童の多さをメリットとしてとらえ、日常的に大勢の児童のつながりを意識させ、個と集団のめりはりをつなげた学習を展開する。③道徳科学習を充実させ、自己を振り返る力を身に付けさせる。
担当	人権部、道徳部

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
○中学年まではとても素直であるが、自分で考え、判断する力が弱く、自分自身に自信がない子どもも多い。高学年になるに従って、自己有用感が少なくなっていく児童が多くなる。 ○地域は古くから学校に協力的であり、地域の中でしっかりと子どもたちを育てようとしている。一方、社会の変化に伴い、過干渉の家庭、放任の家庭など、子どもとの向き合い方に課題がある家庭も増えている。 ○道徳的価値は理解しつつも、規範意識や実践的態度に結び付けるまでに時間がかかる。	○学校教育活動すべてを通して、一人ひとりが自分をかけがえのない存在として思えるようになるとともに、他者もかけがえのない存在として尊重できる子を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン	
○全教育活動を通して道徳教育の充実を図り、豊かな道徳性の育成と道徳的習慣・実践力の形成を図る。 ○家庭・地域との連携を図りながら、より多くの人とのかかわりでコミュニケーション力や豊かな人権意識を身に付けさせる。 ○家庭との連携を通して基本的な生活習慣、学習習慣を身に付けさせる。 ○自然体験や社会体験、異学年集団活動、児童会などによる自主的な活動を通して、規範意識や協働性、自立性、思いやりの心などを育てる。 ○市場スタンダードを教師間で確認しあい、共通理解のもと子どもたちの指導に当たる。	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育科学習や特別活動において、人とのかかわりの中で楽しさを味わわせ、日常的な運動習慣につなげる。 ②学校保健委員会を充実させることを通じて保健に関する意識を高め、健康的な生活習慣につなげる。③栄養職員と連携しながら給食指導や教科学習との関連を中心に食の大切さを伝える。
担当	体育・特活・保健・給食部

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
○新体力テストの結果では、ソフトボール投げ、反復横跳びなどの種目で、市平均を上回る学年が多い。50m走、長座体前屈、上体起こしなどの種目で、市平均を下回る学年が多い。 ○地域でスポーツに取り組む場が豊富にあることから、日常的に運動している児童が多い。しかし、それらに所属していない低学年児童は、ほとんど運動をしていない。中・高学年は、学校の休み時間によく運動している子が多い。 ○朝食の摂取率は、全体的に高い。学年が上がるにつれ、必要な睡眠時間が確保されていない傾向にある。	○人とのかかわりあいを大切にした教育を推進し、運動の機能的特性の体得、承認欲求、帰属欲求を満たし、豊かな人間性を持ち健康な生活を実践する児童を育てます。
目標を実現するための具体的行動プラン	
○体育科では、体づくりの運動、ボール、陸上運動に重点をおき、児童が運動の楽しさや喜びを実感し、各運動のもとになる動きを重点的に取り組めるプログラムを考え、体育学習の充実を図る。 ・体づくり運動では、健康手帳を活用し、自分の体力に注目しながら進んで運動に取り組む。 ・保健学習の中で、心と体の成長の結びつきや生活習慣の大切さに気付かせ、実践的態度を育む。 ○理科の体のつくりと働きや、家庭科での食教育・生活環境の学習との関連を図り実践的態度を培う。 ○道徳では、友達と協力することや自分を高めようとする努力をすることの価値を理解させる。 ○運動委員会では、体育的行事を企画・運営し、児童が、具体的な目標をもって体力向上を図れる場を積極的に提供する。 ○運動会などの体育的行事では、自分の力を向上させる場としてとらえ、目標をもって具体的に組み立てる方法を工夫する。 ○市場タイムでは、地域との連携を図りながら、食や地域の課題に取り組んでいけるようにする。 ○自身の生活と結びつく学校保健委員会の活動に参加する。	